

大学生体育ボランティアによる体育活動支援
「器械運動」「陸上運動」

学校名 山口市立大殿小学校（山口県）6年
全校児童数 625名（男子330名 女子295名）
対象児童数 93名（男子 44名 女子49名）
（本実践に係る問合せ先）
電話番号 083（922）0343
学校メールアドレス ohdono-e@yamaguchi-ygc.ed.jp

1 実践（研究）のねらい

- （1）体育科を専門とする教員養成系の地元大学生を、体育科の授業にボランティアとして招聘することで、児童にきめ細かな対応をしていくとともに運動や体力向上についての意欲を高める。
- （2）身近な大学生のボランティアから指導を受けることを通して、児童が自分の将来について、夢や希望をもつ。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 体育授業サポートの実施

6年生においては、通常、30人程の学級の児童を1人の教員が指導している。

器械運動や陸上運動の指導においては、学級単位の指導ではなく、学年での一斉指導の後に、個別指導に分かれることが多い。大殿小学校では、6年は3学級なので、93人の児童を、3～4人の教員で指導するようになる。

そこで、今回、オリパラ教育推進事業を受け、大学生体育ボランティアによる体育活動支援を受け、児童に、よりきめ細かな対応ができるようにした。

（1）器械運動の補助

器械運動学習時において計5時間ほど、2～4名の大学生ボランティアが参加し、指導の補助を行った。主に、安全管理の徹底や苦手な子へのアドバイス、活動の補助などの役割を担っていただいた。

（2）陸上運動の指導

陸上運動では、1時間程度ではあるが、2名の大学生ボランティアが参加し、走り方や跳び方の基本、デモンストレーションを通じて、正しいフォームや走り方のコツなど、実技を交えて指導していただいた。

○成果の意義

- 1 大学生ボランティアの実演を見たり、助言を受けたりすることで、児童がきめ細かな指導を受けることができ、意欲の継続につながった。
- 2 大学生ボランティアを身近に感じ、憧れをもつことができた。

○今後の課題

- 1 運動に対する児童の関心、意欲が今後も継続するような具体的な取組の実施。
- 2 大学生ボランティアへの憧れを元に、自分自身の将来の在り方を考えるなど、キャリア教育の視点を取り入れた実践。

○ 研究内容

器械運動①

より美しく見える形を学んでいます。



器械運動②

苦手な逆立ちのコツを学んでいます。



陸上運動①

陸上運動についての心構えを聞いています。



陸上運動②

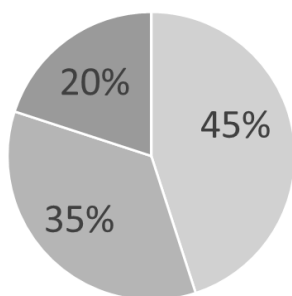
迫力のあるハードルの実演を見ています。



体験学習後の児童の意見・感想（アンケートより）

体験学習後に振り返りを行った。

大学生のボランティアに指導を受けて、器械運動や陸上運動に興味がありましたか。



- とても興味がわいた
- 興味がわいた
- 少し興味がわいた
- 興味がわかなかった

※興味がわかなかった児童は0%。

【児童の意見・感想（抜粋）】

「跳び方のコツやスタートの仕方など、具体的によく分かった。」

「うまく跳べるイメージがわいた。」

「自分もあの大学生の先生のように速く走りたい。」

今後の取組について

～本実践終了後の学校の取組の方向性、内容について～

○体育科を専門とする教員養成系の地元大学生をボランティアとして招聘することは、児童にとっても、大学生にとってもお互いにメリットのあることなので、ぜひ今後も継続して取り組んでいきたい。

○器械運動や陸上運動だけではなく、水泳やボール運動でも実践ができるとよい。

